

今日は日ノ岡峠ひのおかとうげのはなしです。ここは「なんしょ」でした。あわたぐちと山しなをむすぶのが日ノ岡峠です。もともとは日ノ岡は日向大神宮ひむかいだいじんぐうのある山でした。向日神社むこうじんじゃというところからみて冬至とうじの日にあさ日あさひがのぼるの「日」の岡という名まえがつけました。(ちなみに夏至けしのあさ日はうじのあさ日山からのぼりました。)

日ノ岡峠はさかみちを上り下りする人がへとへとにつかれるところでした。さかがきつくて、みんながのめるいど水いどみづもありませんでした。

そこで、江戸時代えどじだいに、木食正禪養阿上人もくじきしょうぜんようあじょうにんというえらいおぼうさんが、たかいところの土をひくいとこにはこぶこうじこぶこうじをしたり「かめの水」というきゆうけい所きゆうけいじをつくったりしました。むかしあった処刑場しよけいじやうでころされた人のため*にいしのとうをつくることもしました。*

うしがにぐるまをひいてものをはこぶというのが江戸時代えどじだいでした。かるいものはぜんぶ人がはこんだのです。

明治時代めいじじだい、馬車ばしやがつかわれるようになると、じこがよくおきました。そこで、明治八年めいじはちねん(一八七五)に、こうじが行われたのです。このときは、もとのたかさよりも約三・四四メートル下にみちをつけて、約六キロメートルにわたってマカダム式まかだむしきのほそこうじほそこうじをしたのです。アスファルトではなく小石と砂すなをつきかためるといいうり方りかたでした。このやりかたは馬のあしにもやさしく、馬車のクッションにもなるという、そのとき一ばんあたらしい方法かたでした。

日ノ岡えびすだに町には今も、そのことをしめす石ひがひっそりとたち、くろうをしのばせています。

おんどくサインー

① なんのはなしでしょう？

() () 日ノ岡峠 () () どうかいどう

() () あわたぐち () () 山しな

② とおるのになんぎするばしよをなんといいますか？ () () なんぎばっしよ

() () なんぎしよ () () なんしよ

③ 日ノ岡はどこからみたあさ日のおかですか？ () ()

④ 日ノ岡とセットで名づけられたのはどこ？ () () うじの () ()

⑤ 日ノ岡峠ではなぜみんながつかれたのですか？わけをふたつかきましよう。

⑥ えらいおぼうさんがつくったきゆうけい所の名まえはなんですか？ () ()

⑦ 明治時代にこの道をなおしたときのことをかいた石ひはどこにたっていますか？ () ()

日ノ岡 () () 町

⑧ あっているものに○をつけましよう。

() () 明治時代にアスファルトほそこうじほそこうじされたのが日ノ岡峠だ。

() () 日ノ岡峠はむかしはもつときつかった。

() () 明治時代に牛車うしぐるまがつかわれはじめた。

⑨ おもったことを五行ごぎやうでまとめましよう。

できばえは？



今日は日ノ岡峠の話です。ここは東海道の難所でした。粟田口と山科を結ぶのが日ノ岡峠です。もともとは日ノ岡は日向大神宮のある聖なる山でした。向日市にある、向日神社から見て冬至の日に朝日がのぼるので「日」の岡という名前がつけました。(ちなみに夏至の朝日は宇治の朝日山からのぼりました。たぶん、弥生時代の向日丘陵にはたくさんの方が住んでいたことでしょう。)

話をもどしましょう。日ノ岡峠は坂道を上り下りする人がへとへとになる場所でした。坂が急で、みんなが飲める井戸水もありませんでした。

そこで、江戸時代に、木食正禅養阿上人というえらいおぼうさんが、高いところの土を低いところに運ぶ工事をしたり、「亀の水」というきゆうけい所を作ったりしました。むかしあった処刑場で殺された人の霊を弔う碑をつくることもしました。

牛が荷車をひいて物を運ぶというのが江戸時代でした。軽い物は全部人が運んだのです。

明治時代、馬車が使われるようになると、事故が多発しました。そこで、明治八年(一八七五)に、本格的な改修工事が行われたのです。この時は、もとの高さよりも約三・四メートル下に道をつけて、約六キロメートルにわたってマカダム式の舗装工事をしたのです。アスファルトではなく小石と砂をつき固めるというやり方でした。この方法は馬のあしにもやさしく、馬車のクッションにもなるという、当時最新式の方法でした。

日ノ岡夷谷町には今も、そのことを示す「修路碑」がひっそりとたち、当時の苦勞をしのばせています。

音読サイン↓

① 何の話でしょう？

()

② 通るのに難儀する場所を何と言いますか？

()

③ 日ノ岡はどこから見た朝日の岡ですか？

()

④ 日ノ岡とセットで名づけられたのはどこ？

()

⑤ 向日丘陵あたりに人々が住みついたのはいつごろでしょう？

()

⑥ 日ノ岡峠ではなぜみんながつかれたのですか？

()

⑦ えらいおぼうさんが作ったきゆうけい所の名前はなんですか？

()

⑧ 明治時代にここの道を修理したときのことを書いた石碑はどこにたっていますか？

()

⑨ あっているものに○をつけましょう。

()

() 明治時代にアスファルト舗装されたのが日ノ岡峠だ。

()

() 日ノ岡峠はむかしはもつと急だった。

()

() 明治時代に牛車がつかわれはじめた。

()

⑩ 上の話の感想を五行でまとめましょう。

()

()

()

()

できばえは？



今日は日ノ岡峠の話です。ここは東海道なんしよの難所なんしよでした。栗田口あわたぐちと山科を結ぶのが日ノ岡峠です。もともとは日ノ岡は日向大神宮のある聖なる山でした。向日市にある、向日神社から見て冬至とうじの日に朝日がのぼるので「日」の岡という名前がつきました。(ちなみに夏至げしの朝日は宇治の朝日山からのぼりました。たぶん、弥生時代の向日丘むこうきゅう陵りやうにはたくさんの方が住んでいたことでしょう。)

話をもどしましょう。日ノ岡峠は坂道を上り下りする人がへとへとになる場所でした。坂が急で、みんなが飲める井戸水もありませんでした。

そこで、江戸時代に、木食正禅養阿上人もくじきしょうぜんようあしやうじんというえらいおぼうさんが、高いところの土を低いところに運ぶ工事をしたり、「亀の水」というきゆうけい所を作ったりしました。むかしあった処刑場しよけいじやうで殺された人の霊れいを弔とむらう碑ひをつくることもしました。

牛が荷車をひいて物を運ぶというのが江戸時代でした。軽い物は全部人が運んだのです。

明治時代、交通手段に馬車が使われるようになって、事故が多発しました。そこで、明治八年(一八七五)に、本格的な改修工事が行われたのです。この時は、もとの高さよりも約三・四メートル下に道をつけて、約六キロメートルにわたってマカダム式の舗装ほそう工事こうじをしたのです。アスファルトではなく小石と砂をつき固めるというやり方でした。この方法は馬のあしにもやさしく、馬車のクッションにもなるという、当時最新式の方法でした。

日ノ岡夷谷町えびすたにには今も、そのことを示す「修路碑しゅうろひ」がひっそりとたち、当時の苦勞をしのばせています。

音読サイン↓

① 何の話でしょう？

② 通るのに難儀なんぎする場所を何と言いますか？

③ 日ノ岡はどこから見た朝日の岡ですか？

④ 日ノ岡とセットで名づけられたのはどこ？

⑤ 向日丘陵あたりに人々が住み着いたのはいつごろでしょう？

⑥ 日ノ岡峠ではなぜみんなが疲れたのですか？

⑦ えらいおぼうさんが作ったきゆうけい所の名前はなんですか？

⑧ 明治時代にここの道を修理したときのことを書いた石碑はどこにたっていますか？

⑨ あっているものに○をつけましょう。

() 明治時代にアスファルト舗装されたのが日ノ岡峠だ。

() 日ノ岡峠は昔はもっと急だった。

() 明治時代に牛車がつかわれはじめた。

⑩ 上の話の感想を五行でまとめましょう。

できばえは？

